2009（平成21）年12月1日　第28号

発行：（福）十字の園本部事務局
理事長　平井　章
住所：〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7220-11
tel 053-436-9535
fax 053-437-1352

社会福祉法人　十字の園

ぶどうの木

（ヨハネ福音書 15章）

「何事も愛をもって行いなさい」

コリントの信徒への手紙Ⅰ16章14節

浜松十字の園　施設長　山本 隆弘

浜松十字の園は「今、私の前にいる、その人の、すべてを、大切にします。」の理念を掲げて事業を行っていますが、その基になっている聖書の言葉が「何事も愛をもって行いなさい」です。今年の6月、施設長を任されて以来、この二つの言葉を話す機会が増えました。つくづく思うのは、「言うは易く行うは難し」ということです。廊下を歩いていると時々「施設長さん」と声をかけられ、「そろそろ家に帰らせて下さい」と相談を受けます。いろいろな事情があったうえで、ここで住まわれているので、このような本音があるのは当然のことです。できるだけ本人の思いを叶えさせたいと思うのですが、この種のことは簡単にはいきません。スッキリした答えが出ないままの相談は次の機会に持ち越されます。ある研修会で「ホッとできる場所がありますか」という問いかけを受けました。入居者や利用者、職員にとってもホッとできる場所…、私は「お互いに大切にされていると実感できる場所」という答えを挙げました。辛い気持ちを共感しながら、でも、今ここにある「意味」とか「幸せ」に思いを向けて一緒に歩みたいと思います。

認知症対応型サービス事業開設者研修「職場体験レポート」から

『地域密着型小規模多機能施設あんき…いいですね！』

理事長　平井　　章

認知症対応型事業開設者研修を受講しました。一日目は座学としての講義を受け、二日目は運営している施設での職場体験です。地域密着型小規模多機能施設「あんき」での私自身の体験レポートをお読みください。「居心地」「居場所」へのヒントにしていただければ幸いです。

① 家庭的な朝のひと時

「おはようございます」と玄関を開けて食堂を覗くと、お泊りの４人の利用者の方と、夜勤と早番の二人の職員が「おはようございます」と私を迎えてくれました。食事を終えて職員はその後片付けをしています。私は利用者の横に座って一緒にＮＨＫの朝ドラを見ながら、お茶を飲み、話をして過ごしてみました。利用者の方々の情景は、普通の家庭の、のんびりした朝のひと時と同じでした。私たちの当たり前と思えるこんなひと時をつくりだすのも、認知症ケアの実践には大切なことでしょう。

② 家族との信頼関係

少したった時、玄関のチャイムが鳴って出勤前の家族の送迎でお一人来られました。「いつもの連絡ノートの入っている袋が見当たらなかったけれど、こちらに忘れてはいないでしょうか？」と息子さんが職員に話していました。「車の中に置き忘れたかもしれないので、昨日送迎した職員にも聞いておきます」と言って利用者をお受けします。職員に聞いたところ、送りの時に利用者が連絡帳の入っている袋を気にするので、別のところに置くようにしたとのことで解決しました。さりげなく、困っていることや質問を投げかけることができる家族との信頼関係を築いておくことも大切なことでしょう。

③ 歩くことに気持ちを集中させての誘導

「○○さん、こっち向いて。歩きますよ！」と、一歩一歩、声掛けをして家の中にお連れしていました。きょうは調子がよいとのことです。この方の場合は、手引き歩行をするときに、歩くことへ気持ちを集中させるようにしないとふらつきがあり転倒の危険があります。お一人お一人の特徴を知ることによって自立の支援につながることを感じました。

④ 職員間の情報交換、情報伝達

日勤の職員が来ました。朝の礼拝と昨日の日中や夜勤帯の利用者の様子、連絡ノートなどの申し送りが始まります。早番の職員は本日の送迎の計画をし、送迎専門の職員との打ち合わせ、利用者の傍らで自分が迎えに行くことへの準備を始めています。早番が送迎に行くと日勤の一人が交代して利用者の傍に行きました。認知症の方の場合、一寸した油断が転倒など事故につながるので、見守りが大切です。

⑤ 利用者に合わせた自由な発想による運営

今回の実習にあたって大正琴を持ってきてほしいとの依頼があり、午前中は私の奏でる大正琴に合わせての歌の会になりました。歌詞カードが作られていたので、そこにある曲を弾きました。懐かしのメロディーや季節の歌は、高齢者に笑顔と元気を提供することができます。昼食前の最後の曲は、職員からのリクエストで「星影のワルツ」を弾きました。このメロディーにあわせて、「幸せのワルツ」の替え歌がみんなで歌われました。この替え歌の中に、認知症高齢者の幸せのヒントがあるかもしれません。

「幸せのワルツ」

1 一度だけの人生を　大事にしようよこの命
　みんなで幸せのワルツを歌おう
　この世に生まれた幸せを　々　々
　みんなで明るく生きようよ

昼食では、盛り付けなどのできる利用者には手伝っていただきながら準備が進められ、一緒に昼食をとりました。繁華街近くの画廊で絵画の個展があると話したら、天気がいいので出かけることになりました。車内では、周囲の景色や街中の様子などに話題が膨らみます。寒桜が咲いているというので遠回りしてみました。臨機応変にその日の利用者やスタッフで一日の流れが作られていくこともよいものです。

「感動をありがとう」

法人　評議員　永田 めぐみ

過日あるホールでルーマニア出身の男性ピアニストのピアノ演奏会がありました。会場は空席の目立つ入り状況でしたが、ショパンのバラードとリストの超絶技巧練習曲を繊細かつ情熱的に演奏し、おおいに感動を与えてくれました。予定の曲を弾き終わったあとも拍手が鳴りやまず、それに応えてピアニストはアンコール曲をおしみなく何曲も披露してくれました。披露というよりは会場のお客さんと一緒に楽しんでいるという感じでした。

1台の楽器とひとりの人の指が奏でる音がこれほど人の気持ちを動かす、という経験は久しぶりでした。

今年も間もなくアドベントを迎えます。保育園の子ども達との生活の中で、アドベントの第一週からクリスマスの日までの毎日は、静かに待つ気持ちと嬉しさあふれるわくわく感とでいっぱいになります。そしていよいよクリスマスを祝うその日は、子ども達の演ずるページェントが私たちに感動を与えてくれます。神様が私たちにひとり子イエス様を送って下さったことへの喜びとそのことを一生懸命演じてくれる子ども達の姿に感動します。

人の心を動かすことのできる生き方を示して下さい、人の喜びや悲しみを共に感じることのできる柔軟な心をお与え下さい、と祈りつつ今年もクリスマスを迎えます。

「伊豆高原十字の園移転改築整備事業の進捗状況報告２」

伊豆高原十字の園　施設長　青木 克文

当施設の移転改築事業は、設計監理を担当する（株）久米設計の担当チームと定期的に打合せをもち、現在は基本設計の詰めを行いつつ、関係機関との協議や各種申請、届出等を進めています。

建設予定地は、現施設の東隣の国立公園特別地域内で敷地面積約 25,000㎡、造成エリアは 9,731㎡弱となります。その用地に鉄筋コンクリート造３階建（延べ床面積 5,350.36㎡）の本棟と鉄骨造１階建の地域交流ホール（106.40㎡）が造られます。

本棟では、①特養　定員 90 人＋短期入所生活介護事業　定員 10 人　計 100 人（個室ユニットケア)、②通所介護事業　定員 20 人、③訪問介護事業、④居宅介護支援事業、⑤地域包括支援センター、の各事業が行われます。現在の特養定員 58 人と短期入所生活介護事業定員５人からは大幅な増床となり、入居及び利用を希望しておられる多くの方々の要望にもお応えできると思います。

計画事業費は 1,866,120,000 円、内訳は補助金等 489,945,000 円、借入 1,177,800,000 円、自己資金は 198,375,000 円を予定しています。

今後のスケジュールは、12 月中に実施設計を終え、2010 年２月から仮設防災工事を行い、新年度早々に県から内示をいただければ、補助金及び借入の申請、入札を実施し、６月着工、2011 年３月の完成を目指しています。皆様、ご支援の程よろしくお願いいたします。

2009年度　十字の園大会報告

「第14回十字の園大会」が10月21日（水）～22日（木）、「利用者の安全と安心を目指して」をテーマに、平和の杜、伊豆高原十字の園の共同開催として伊東の地で開催されました。

基調講演では、内田知牧師（日本基督教団伊東教会）をお迎えし、「十字の園の働き～神と共に歩み　神の業に与る～」という演題で講演していただきました。課題講演では、中原代助氏（(株)あいおいリスクコンサルタント　主席コンサルタント）をお迎えし「認知症利用者のリスクマネジメント」について、ご講義をいただきました。

また、課題テーマに沿い、十字の園各施設から「事故ゼロを目指そう（浜松）」「プロフェッショナルとしての注意義務と事故予見能力を高める（御殿場）」「利用者の自由な行動を制限しないで未来の事故を未然に防ぐ（伊豆高原）」「美味しさを健康寿命に繋げたい（アドナイ）」「安全で安心した生活の実現に向けて（松崎）」「本人の気持ちの変化と家族関係の調整とは（オリブ）」「入居者の不安をいかに取り除けるか（平和）」と合計7題の発表が行われ、利用者の安心と安全を守り、より質の高いケアの実現を目指す取り組みが紹介されました。

課題講演「認知症リスクマネジメント」

（株）あいおいリスクコンサルタント　主席コンサルタント　中原 代助　氏

従来の日本的事故防止活動は、「事故原因は人のミス、事故防止活動は人がミスをしないように管理すること」でした。新しい事故防止の手法であるリスクマネジメントは、『人は誰でも必ずミスをする』との考えを前提に活動することです。①人にミスをさせる原因も含めてすべての事故原因を究明し除去する活動、②人がミスをしても事故につながらない仕組みづくり、事故をしてもなるべく被害が小さくなる仕組みづくり、がリスクマネジメントの考え方です。

介護の仕事はご利用者に「絶対に事故をさせてはいけない」のが目的ではなく、最大の使命は「ご利用者が極力人間らしい生活を営むことを支援する」ことであるため、日常生活に伴うリスクはゼロにはできません。人が生活することに伴うリスクは避けられないのです。事故さえ防げればご利用者の自由を奪ってよいのではなく、事故防止対策によるメリットとデメリットを考え対処しなければなりません。

以前は認知症利用者の問題行動の発生は予測不可能（不可抗力）による事故ととらえられてきました。新しい認知症ケアの考え方は、問題行動にも原因となる環境や条件があり防止可能である、不適切なケアが原因で問題行動が発生すれば施設側に責任がある、という考え方に変わってきました。認知症利用者に問題行動を発現させる直接要因として、きっかけは、人間関係や周囲の環境など外部からの刺激であったり、便秘、発熱などの体調の不良であったり、利用者によってさまざまです。しかし、①生活環境が利用者に適しているか？②外部からわからない体調不良がないか？③介護職の関わり方が適切か？の3点に注目していくことが大切なのです。

問題行動の原因除去による事故防止対策として、①環境変化を最小限に　②生活習慣を変えない　③人間関係を変えない　④落ち着ける場所作り　⑤役割を作る　⑥人間関係づくり、また、問題行動の原因となる体調不良には、①便秘②脱水症状　③発熱　④慢性疾患の悪化　⑤季節の変わり目の不安定　⑥服薬、などがあげられます。

このように認知症の症状を緩和し、「問題行動」の原因そのものを取り除くような新しい認知症ケアの考え方を活用して、認知症利用者の事故防止対策について現場での取り組みのヒントとなるような具体的事例の数々を紹介していただきました。

基調講演　「十字の園の働き　―神と共に歩み 神の業に与る―」

日本基督教団伊東教会　内田 知　牧師

十字の園とのかかわりが11年目を迎える内田知牧師により、聖書の言葉やご自身の身近な介護のお話をとおして、「キリスト教を土台とする十字の園の働き、神と共に歩み、神の業に与り、神の働きに加わること」についてのお話をいただきました。

「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さき者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（ﾏﾀｲ福音書）や、「よきサマリア人」（ﾙｶ福音書）のたとえ話を引用され、「目の前の困っている人に何かをすることは神に対して行うこと、困っている人を助けることは神の命令であり、『行ってあなたも同じようにしなさい。』との命令を受けてディアコニッセによる働きが始まった。キリスト教の信仰というＤＮＡが十字の園の中にあり、このルーツを失ってはならない。」と述べられました。

初期の頃は、愛の奉仕、神への献身としての働きでありましたが、現在は、介護・福祉は社会的な課題であり、使命感だけの働きではなくなりつつあります。ここで内田先生は、教会に訪れる「あるおじさん」との交流の話をされました。「神に逆らう者は同情すら残酷だ」（箴言12章10節）の言葉を用いられ、神を畏れることの大切さ、わたしたちは積極的な意味でも消極的な意味でも、「隠れたことを見ておられる隠れた神の前に生きている」と述べられました。

主イエス・キリストは「弱い者」を支え、助け、寄り添われました。だとすれば、介護の働きも、イエス・キリストの働きを受け継ぎ、一人ひとりが小さなキリストになり「その働きを体現すること」であり、介護はまさに神の業に与る働きである、と述べられました。

またかつて、小塩高恒牧師が「よきサマリア人」のたとえ話の「宿屋の主人に注目するべきだ」と語ったことについて、十字の園もこの宿屋の主人のように、目立たなくとも、イエス・キリストの働きを助ける施設でありたい、と話されました。

高齢者福祉の先駆的な働きをした十字の園。そしてそれは信仰から始まったことを忘れずにいたいと思います。介護の仕事は、目の前にいるお年寄りを支えるだけでなく、背後の家族や社会をも支える仕事であり、またこれは「神の業に与る」、尊く、素晴らしい働きである、と述べられ、最後にお祈りをもって講演を終えられました。

十字の園大会プログラム

２１日	開会宣言	14:00～	司会 庄野加代子 中村小雪	
	開会礼拝	14:10～	司式 内田知牧師 奏楽 近藤	説教「神の招き」
	理事長挨拶	14:30～	平井 章　理事長	「既に据えられている土台の上に」
	基調講演	14:40～	内田 知　牧師	十字の園の働き～神と共にあゆみ神の業に与る～
	課題講演	15:50～	中原 代助　氏	認知症利用者のリスクマネジメント
２２日	施設発表１	9:05～	薗田 和幸　金原 忍（浜松）	事故ゼロを目指そう
	施設発表２	9:15～	石田 繭香　猪越 貴史（御殿場）	プロフェッショナルとしての注意義務と事故予見能力を高める
	施設発表３	9:25～	寺田 薫　西川 啓一（伊豆）	利用者の自由な行動を制限しないで未来の事故を防ぐ
	施設発表４	10:10～	前田 朗江（アドナイ）	美味しさを健康寿命に繋げたい
	施設発表５	10:30～	渡邉 直明（松崎）	安全で安心した生活の実現に向けて
	施設発表６	10:45～	土屋 正子（オリブ）	本人の気持ちの変化と家族関係の調整とは
	施設発表７	11:00～	小川 晃（平和の杜）	入居者の不安をいかに取り除けるか
	講評	11:30～	森 茂廣　施設長	
	閉会礼拝	11:40～	司式 久保島牧師 奏楽 近藤	説教「神を信ずる」
	閉会の挨拶	12:10～	青木　山本　両施設長	

レッツ　モザイカルチャー!!

浜松十字の園　鶴見 俊輔

「浜名湖花博以来の大イベント、行くしかないね！」という事で、9月28日と10月9日にユニットの利用者をお連れし、今話題のモザイカルチャーに行ってきました。両日共に天気は曇りで、暑くもなく過ごしやすい気候でした。利用者の方々は作品に目を丸くされ、驚かれたり、楽しまれたり。皆さん満喫できたようです。また、普段車椅子使用のTさんは、職員に「(車椅子を押すの)代わろうか？」「歩いてくよ！」と声をかけて下さるくらい、元気！元気！で終始過ごされていました。気持ちが若返ったのでしょうか（笑)。職員を気遣ってしまうほど活発的だったTさんの様子をハガキでお伝えすると、ご家族みんなで声を出して笑ったそうです。Tさんのいつもと違う一面を見ることもできましたし、利用者の方々の気分転換になったようです。やっぱり外出っていいものですね！

白熱!! 大運動会

御殿場デイサービスセンター　神戸 由紀子

11月3日、5日、6日に秋の風物詩『大運動会』を開催しました。『デイサービスにいらっしゃる方々に楽しんでいただけるように』を大前提に「11月に運動会を催したいと思います。やってみたい競技がありますか？」とリクエストをとったところ、開口一番「騎馬戦！」これにはデイサービス職員一同驚きました。担当看護師に至っては「一瞬めまいがした。」と言っておりました。さすがに『騎馬戦』と『むかで競走』は勘弁していただき、当日は玉入れ、ボールおくり、借り物競走、定番のパン食い競争に応援合戦と職員対抗綱引きを加え、楽しんでいただきました。普段とは異なる緊張感が漂い、日頃のんびりしていらっしゃる方が、その姿からは想像できないくらいの俊敏さと対抗意識で競技に興じている姿が印象的でした。皆さんから「いやぁ～楽しかった。」という言葉を頂戴できたことがなによりです。

小さな秋祭り

伊豆高原十字の園
鈴木 貴雅

伊豆高原十字の園では、9月30日に露店を出店し、小さな秋祭りを行いました。焼きそば・お好み焼き・蒸かし芋ｅｔｃ…数種類のメニューからバイキング形式でみなさんに選んでいただきました。中でも1番人気はやはり焼きそば!!あの焼ける音とソースの香ばしい香りにはつられてしまいますよね。続いての人気メニューはぜんざい！みなさん甘いものには目がないようで、笑顔で召し上がられていました。

入居者のみなさんの表情が豊かで、本当に楽しんでいただけたと思います。後で、みなさんから「おいしかった」「楽しかった」と言ってもらえて、それが何よりのことでした。最も大事なことである職員の対応も細かな気配りができていて、良いお祭りになったと思います。

初めての敬老会

第2アドナイ館　小澤 博和

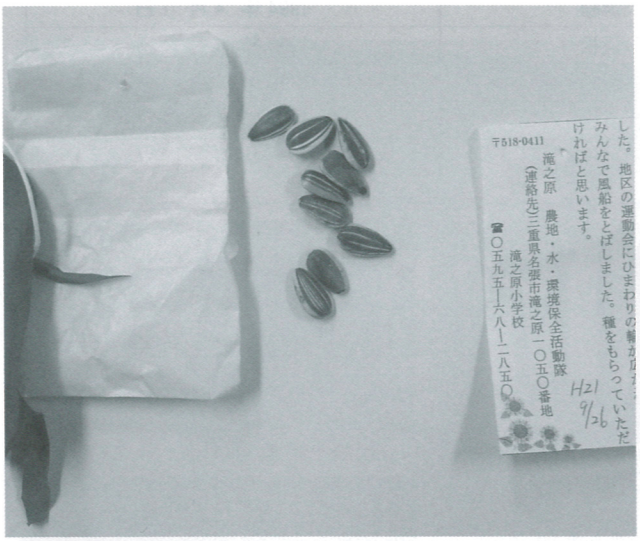
9月15日に第2アドナイ館にて初めての敬老会が行なわれました。今年は、遠州栄光教会の牧師さんに式典礼拝をお願いして、その後、この施設がわかば保育園跡地に建てたとの関係もあり、わかば保育園の園児が来てくださりハンドベルと歌を歌ってお祝いをしてくださいました。

どんなに職員が頑張っても子供の笑顔には勝てません。利用者さんの普段はめったに見られない輝いた笑顔を見ていると、職員もうれしくなってきます。来年も同じ利用者でこの日を迎えられる事を望みます。

遠くからきました。

松崎十字の園　山本 貴一

松崎十字の園の職員寮が町の中心から下田側の2ｋｍ位の所にあります。9月26日に破れた風船を見つけましたとの報告がその寮に住む職員よりありました。それは、三重県名張市にある滝之原小学校の農地・水・環境保全活動隊が今年の夏取れたひまわりの種を袋に入れて飛ばしたものでありました。直線で240ｋｍもの距離をはるばる飛んで来た事を想像すると来年は、この種から大きなひまわりを咲かせたくなりました。



歌と踊りの楽しいひととき

伊東市立養護老人ホーム　山田 敬紀

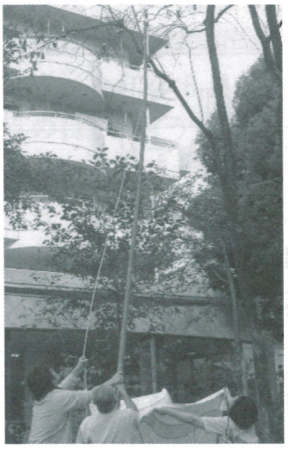
9月29日、平和の杜で演芸大会が開催されました。場所は、施設内の　集会室。入居者と職員が一緒に参加し約2時間、楽しい時間を過ごすことができました。趣味で書道を楽しまれているＳさんと職員とのデュエットから始まった演芸大会は、Ｏさんと職員とのフラダンスやジェスチャーゲーム、職員の演奏・合唱・独唱、そして、最後は、施設合唱団ソンテによる合唱（伊東市民の歌）と内容盛りだくさん。予定されていた2時間はあっという間に過ぎてしまいました。芸達者な職員が力を合わせ、充実した演目がそろい、笑いの絶えない日となりました。また、大池デイサービスの方も参加され、職員や他の入居者の普段目にしない一面を見ることができ、より親近感を持っていただけたようです。ジェスチャーゲームでは、回答者に代わって答えを言うなど、ハプニングもありましたが、予想外の出来事もまた楽しいものです。

大地のめぐみ　その3　　干　し　柿

アドナイ館　三輪 真理子

11月のある日、職員が中庭に集まっています。高枝切りばさみに竹をつないで更に長くしたものを、二人ががりでささえ、上手に渋柿の枝を切ってゆきます。下では女性陣がタオルケットを広げ、受け止めます。中では入居者の皆様が皮むきにベテランの技をみせ、へたに糸を結ぶ人に送ります。そうして軒先に渡した長い長いロープに施設長が手際よく吊るしてゆきます。

2週間ほどしてすっかり渋がぬけ、美味しい干し柿ができあがりました。130個ほどあった甘い甘い干し柿は入居者、デイサービス利用者、職員、近隣の方々のおなかにも無事に収まり、味の良さとともにアドナイ館のチームワークの良さも再確認しました。



2009（平成21）年度　永年勤続者表彰名簿

勤続年数	氏　名	施設名	就職年月日
35年	清水　実	第2アドナイ館	1974年 4月 1日
20年	中島梨枝子	松崎	1989年 4月 1日
15年	岩瀬美恵子	御殿場	1993年10月 1日
15年	神戸由紀子	御殿場	1994年 2月 1日
15年	杉原　克敏	アドナイ館	1994年 4月 1日
15年	鈴木　晶子	第2アドナイ館	1994年 4月 1日
10年	塚本りつ子	御殿場	1998年 9月 1日
10年	小川　智子	伊豆高原	1998年 7月 1日
25年	鈴木　完児	浜松	1984年 4月 1日
15年	伊藤　潔人	浜松	1993年 4月 1日
15年	後藤　幸一	浜松	1994年 4月 1日
10年	薗田　和幸	浜松	1999年 4月11日
10年	永田　昌代	浜松	1999年 4月11日
10年	荒川　浩幸	浜松	1999年 4月11日

おめでとうございます。これからも元気でよい働きができますように！

各施設のクリスマスについて

今年は、各施設の〝クランツ〟を比べてみました。同じ法人内でもやはり個性がありますね。

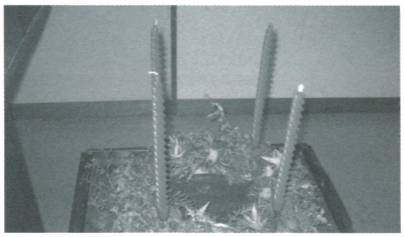
伊東市立養護老人ホーム
（月桂樹・柊・万両・野ぶどう）

アドナイ館
（杉・柊・万両の実）

伊豆高原十字の園
（柊・千両）

御殿場十字の園
（杉・柊）

松崎十字の園（柊・赤リボン）


浜松十字の園（杉・蔦）

第2アドナイ館（杉・赤リボン）

あとがき

今号は、各施設のクランツにスポットを当ててみました。ハニ姉妹からの伝統を受け継ぐクリスマスツリーとともに、各施設が工夫を凝らしつつ「十字の園の精神」を守りつづけようとする息吹を感じています。

2010年は社会福祉法人十字の園が50周年を迎えます。この半世紀を振り返り、次世代へと継承するための、記念事業も具体化してきました。

クランツのろうそくを一つずつ灯すような気持ちで、その時を待ちたいと思っています。（鈴木）

皆様の暖かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7220-11
社会福祉法人　十字の園
理事長　平井　章
銀行振替　静岡銀行細江支店 普通 0015345